

## 4月27日（月） 全校集会 校長講話

みなさん、おはようございます。

あいさつについては、これまでに学級や学年集会などで先生方から何度となく話があったと思います。

今日は、改めて全校で「あいさつ」について考えてみたいと思います。

まず、想像してみてください。

朝、教室に入ったとき、誰からも何も声をかけられなかったら、どんな気持ちになりますか。

少しさみしい気持ちになったり、「ここにいていいのかな」と不安になったりする人もいると思います。

逆に、「おはよう」と声をかけられたらどうでしょうか。

それだけで少し安心したり、「今日もがんばろう」と思えたりしませんか。

あいさつには、人の気持ちを動かす力があります。

たった一言ですが、その一言で相手の一日を少し明るくすることができます。

また、「あいさつをする意味」と言うと、

それは、あいさつが「人と人をつなぐ最初の行動」だからです。

学校は勉強だけをする場所ではありません。

いろいろな人と関わりながら、自分も成長していく場所です。

そのスタートが「あいさつ」です。

あいさつをすることで、相手の存在を認める。

「あなたのことをちゃんと見ていますよ」というメッセージを送る。

だから、あいさつは大切なのです。

もう一つ、大事なことがあります。

あいさつは、「自分から、気持ちよく」です。

返ってくるかどうかではなく、自分からできたかどうかの方が大事です。

これは、勉強や部活動にもつながります。

自分から動く人は、必ず成長します。

難しいことは必要ありません。

ひとつ、「自分から」

ふたつ、「目を見て」

みっつ、「はっきりと」

これを意識するだけで十分です。

今日から、「自分からあいさつする」を心がけていきましょう。

そして、「あいさつが当たり前のできる学校」にしていきましょう。

以上で、私からの話を終わります。